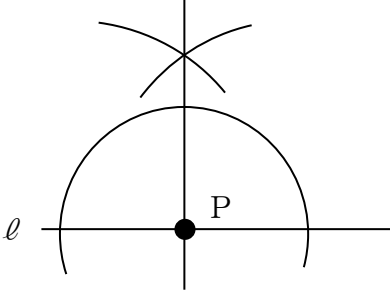


# 数学 採点のポイント

(30 分割後期・二次)

問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>① 〔問 9〕 配点 6 点</p>		<p>○点 P を通る垂線を作図することができている。</p>
<p>② 〔問 2〕 配点 7 点</p>	<p><math>b, c, d, e, f</math> を、それぞれ最も小さい自然数である <math>a</math> を用いた式で表すと、  <math>b = a + 1, c = a + 2, d = a + 3,</math>  <math>e = a + 4, f = a + 5</math>  と表せるから、  <math>P = a \times b = a(a + 1) = a^2 + a</math>  <math>Q = e \times f = (a + 4)(a + 5) = a^2 + 9a + 20</math>  よって、  <math>Q - P = (a^2 + 9a + 20) - (a^2 + a)</math>  <math>= 8a + 20 = 4(2a + 5) \dots\dots\dots(1)</math>  また、  <math>R = c + d = (a + 2) + (a + 3)</math>  <math>= 2a + 5 \dots\dots\dots(2)</math>  (1), (2) より、  <math>Q - P = 4 \times R</math>  したがって、  <math>Q - P</math> の値は、<math>R</math> の値の 4 倍となる。</p>	<p>○<math>b, c, d, e, f</math> をそれぞれ <math>a</math> を用いた式で表すことができている。  ○式の変形ができ、適切に処理することができている。  ○<math>Q - P</math> の値が、<math>R</math> の値の 4 倍となることを的確に示すことができている。</p>
<p>④ 〔問 2〕 ① 配点 7 点</p>	<p><math>\triangle ABQ</math> と <math>\triangle DBC</math> において、  <math>\triangle ABD</math> は二等辺三角形だから、  <math>\angle ABD = \angle ADB</math>  <math>AD \parallel BC</math> より、平行線の錯角は等しいから、  <math>\angle ADB = \angle DBC</math>  よって、  <math>\angle ABQ = \angle DBC \dots\dots\dots(1)</math>  (1) より、線分 <math>BD</math> は二等辺三角形 <math>BPA</math> の頂角の二等分線だから、底辺 <math>AP</math> と垂直に交わるので、  <math>\angle BQA = 90^\circ</math>  仮定から、  <math>\angle BQA = \angle BCD = 90^\circ \dots\dots\dots(2)</math>  (1), (2) より、2 組の角がそれぞれ等しいから、  <math>\triangle ABQ \sim \triangle DBC</math></p>	<p>○正しいと認められる事柄について、根拠を明確にして記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。